

地域個体の保存と公設植物園の担う役割 ～六甲山におけるヤマアジサイ調査・保存の事例～

(公財)神戸市公園緑化協会 神戸市立森林植物園 ○小林 徹哉、井上 浩彰
兵庫県立大学院緑環境マネジメント研究科 田淵 美也子

調査活動の背景・目的

- 神戸市立森林植物園(以下、森林植物園)は、『瀬戸内海国立公園六甲地域』に位置し、六甲山をはじめ国内外の樹木を約1,200種(うち500種は外国産)植栽・生体展示し、博物館相当施設に指定されている。
- 近年、生物多様性が重視されるのを背景に、森林植物園では、公設の植物園として**地域個体の保存活動を実施**している。
- 特に近年力を入れているのは、神戸市民の花として親しまれているアジサイであり、国内で随一の『あじさい情報センター』としてアジサイを収集・保存・展示(350品種以上、約5万株)している。
- 六甲山には、ヤマアジサイのほか、コアジサイやコガクウツギなどのアジサイ属の原種自生が多くみられる。なかでも**ヤマアジサイは遺伝的多様性が高く**、地域性や個体の変異が大きいとされている。
- しかし、地域のアジサイの自生個体が、花の形態などどのような形質を有しているか、詳細な情報は乏しい。
- そこで、六甲山系のヤマアジサイの**地域個体の分布および形質的な多様性を把握し、希少な変異個体の収集・保存**を目的に、平成30年から自生地調査を実施している。
- 一方で、神戸市は2012年に六甲山森林整備戦略を策定したが、六甲山系の半分を占める私有林については手入れが行き届かなくなっており、**地域森林の新たな魅力の発見という観点から、六甲山系唐櫃地区で協働の取組**を行っている。

目標とするアウトカム

- 協働で地域個体を調査・保存することで、その希少性と魅力を所有者に情報提供 ⇒ **適切な森林の手入れの意義づけ**
- 公設植物園として、地域個体を保存・展示 ⇒ **地域資源の活用によるヤマアジサイの多様性の魅力発信**

調査地および調査方法

- 調査地: 神戸市北区有野町唐櫃地区
- 調査日: 2018年6月25日、2019年6月16日、6月26日
- 調査方法:
 - ・森林所有者の案内により、ヤマアジサイ自生地を探索⇒発見した個体を無作為に抽出
- 調査項目(8項目):
 - ・装飾花の色、両性花の色、装飾花の形状、群落の規模、地形、植生、光環境、土壌環境
- 調査体制:
 - ・有識者(兵庫県立大学院緑環境マネジメント研究科)
 - ・公設植物園(神戸市立森林植物園)
 - ・森林所有者(神戸市下唐櫃林産農業協同組合)



写真1. 森林植物園のアジサイ

結果(ここでは花の形状について紹介)

- 一部に、八重咲き、半てまり咲、子持ち咲の個体が確認された(写真参照)。
- それらは、**六甲山系の地域個体として収集・保存の意義**があると判断し、一部挿し穂を採取し森林植物園で保存に供した。



写真2. 装飾花が八重咲きの個体



写真3. 半てまり咲の個体



写真4. 子持ち咲の個体



写真5. 装飾花に刻みの入った個体

今後の計画と課題

- 新規調査地の開拓および調査数を増やし、引続き**多様性について事例調査**を行う。
- 地域の自生個体の保存**を進める(現在43個体、目標200個体!)
- 光環境などの環境を計測し数値化・比較し、森林植物園でのアジサイ保存・展示環境に、自生地により近い環境の再現を目指し、健全で魅力的な個体の保存・展示に資する。
- アジサイ調査の適期は、開花している6月下旬だが、森林植物園の繁忙期にあたるため、野外調査を実施する十分な体制を取ることが困難 ⇒ 小規模植物園のジレンマ
- 活動継続には体制の充実が必要 ⇒ **調査・保存活動の市民参画・大学生との協働**の模索



写真6. 自生地の一例